

京都と中国文化

文化と学問の町である京都

1. 内藤湖南の中国関係の文化活動



名は虎次郎（とらじろう）、湖南はその号。慶応（けいおう）2年旧南部（なんぶ）藩（秋田県毛馬内（けまない））に生まれる。秋田師範学校卒業。東京に出てジャーナリズムに入り、台湾にも渡ったが、やがて大阪朝日新聞社で論説担当者となり、中国問題の論壇第一人者として外務省の対華政策にも献言する。1907年（明治40）狩野亨吉（かのうこうきち）によって京都帝国大学に招かれ、2年後教授、東洋史学担任、翌年文学博士となった。のち帝国学士院会員。この間渡欧し、敦煌（とんこう）文書の調査研究を行う。1926年（大正15）退官後、京都府瓶原（みかのはら）村（現木津川（きづがわ）市）で恭仁（くに）山荘を営み、読書生活に入る。国宝保存会委員などの要職を続け、昭和9年没、69歳。

（1）中国近代知識人との交流：



羅振玉



王国維

羅 振玉（ら しんぎよく）：

中国，清末・民国の学者。字は叔言，号は雪堂。浙江省上虞の人。日清戦争の影響で，農学を中心とした国力振興を考え，日本，西欧の農書を翻訳し，翻訳者養成のため東文学社を建てた。1909年(宣統1)張之洞の推薦で京師(けいし)大学堂農科大学監督に就任したが，11年の辛亥革命で女婿(じよせい)王国維とともに日本に亡命し，旧知の内藤湖南(虎次郎)，狩野直喜らのいる京都に7年間滞在した。20世紀初頭の殷墟(いんきよ)や敦煌から発現した新資料の価値をいち早く認識し，その収集と整理に努力してきたが，日本滞在中に《鳴沙石室佚書》《流沙墜簡》をはじめ《芒洛冢墓(ぼうらくちようぼ)遺文》など数多くの資料集を出版した。

(2) 京都の中国書画などの芸術品の収蔵との関わり

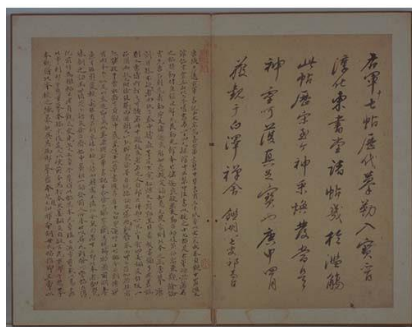
(2-1) 上野コレクション(京都博物館)

京都国立博物館の中国書画コレクションの中核をなすのが、朝日新聞創刊期の経営者・上野理一氏(1848-1919、号は有竹斎)が収集し、子息の精一氏が昭和35年(1960)に寄贈された上野コレクションです。

上野理一氏は早くから茶道をとおして古美術品に関心を寄せ、明治22年(1889)には朝日の共同経営者の村山龍平氏と近代日本初の東洋古美術研究誌『國華』を創刊しました。日本美術では、東京帝国大学教授で、國華社主宰の瀧精一氏(1873-1945)、中国美術では、朝日新聞社記者を経て京都帝国大学教授となった内藤湖南氏(1866-1934)らの助言を得て名品収集の幅を拡げました。



清時代の画家・惲寿平(うん・じゅへい)が描いた『花陽夕陽図』



書聖・王羲之(おうぎし)の草書を現在に伝える『宋拓十七帖』

(2-2) 黒川幸七

(黒川証券→黒川木徳フィナンシャルホールディングス株式会社) 二代黒川幸七氏(1871-1938)は、若い頃から家業の証券業には関心が薄く、家督を継いだあとも、事業は番頭にまかせ、自らは御影(現神戸市)に別荘飛香館を築き、書画、囲碁、盆栽、煎茶、そして古美術の収集に情熱をそそぎました。内藤湖南氏や羅振玉氏、犬養毅氏などの当時の文化人と交流を結び、中国書画、青銅器、古鏡、刀剣、刀装具、古銭等を幅広く収集しました。

収集方針については内藤湖南氏に感化を受け、その没後は門下の梅原末治氏が考古学分野から助言に当たりました。その縁から、晩年には京都大学人文科学研究所の前身である東方文化学院京都研究所に、殷代の甲骨および龍門石刻拓本を寄贈しています。



京都大学人文科学研究所

考古美術参考品

石器、青銅器、仏像、陶磁器の類で、主要なもの150点。雲岡、敦煌の仏像複製、漢唐の明器などには他に見られぬものがある。主として分館のホールおよび廊下の陳列ケースに収容されている。

敦煌・トルファン古写本資料

敦煌蔵経洞およびトルファンなど西域各地から発見された漢文・チベット文・ウイグル文等々の古写本で、スタイン蒐集、ペリオ蒐集、北京蒐集などがマイクロフィルム焼付写真として所蔵されている。

2. 住友家の収蔵

泉屋博古館（京都市左京区）

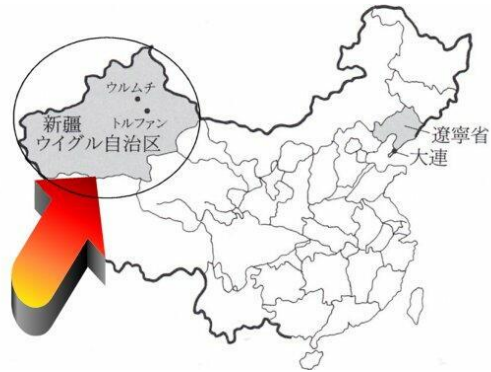


財団法人泉屋博古館は、[住友家](#)の美術コレクション、特に中国古代[青銅器](#)を保存展示するための機関として[昭和35年](#)（1960）に設立された。収蔵品は、住友家当主15代目[住友吉左衛門](#)（1864－1926）が収集した中国古代青銅器類と、その長男の住友寛一（1896－1956）が収集した中国明清代の絵画を中心とするコレクションや、16代目当主[住友吉左衛門](#)（1909－1993）が蒐集した作品、また15代目以前から住友家に伝来したものが中心である。所蔵品は、中国の[殷](#)（商）、[周](#)時代を中心とした青銅器、日本・中国の銅鏡、仏像、明・清時代を中心とした中国書画などが名高い。



3. 大谷探検隊

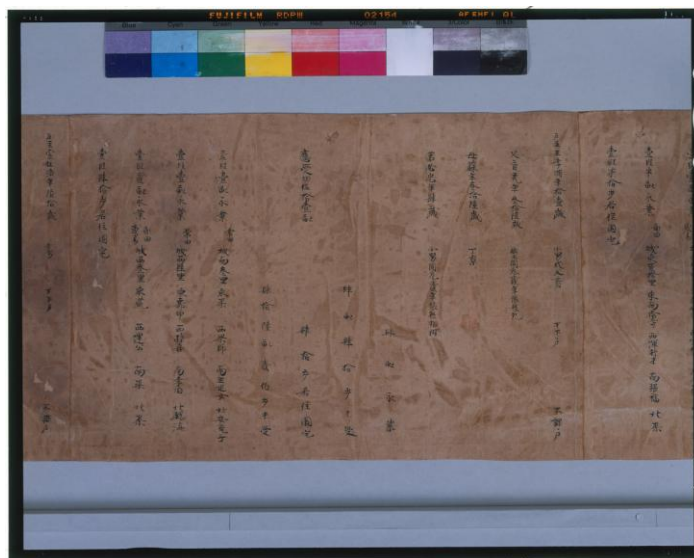
大谷探検隊は、20世紀初頭に日本の浄土真宗本願寺派（西本願寺）第22代法主・大谷光瑞が、中央アジアに派遣した学術探検隊。シルクロード研究上の貴重な業績を挙げた。1902年 - 1914年（明治35年 - 大正3年）の間に、前後3次にわたって行われたが、戦時中という状況も重なり活動の詳細は不明なところも多い。



龍谷大学龍谷ミュージアム、東京国立博物館



伏羲嫗女図D本(龍谷大学)
アスターナ 7~8世紀



樹下人物図紙背文書（大谷探検隊将来品）